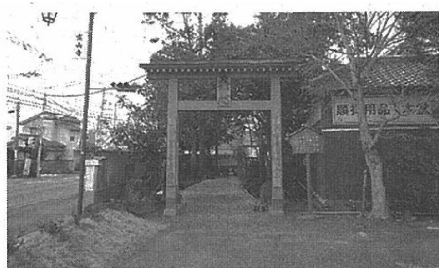


阿波・土佐・伊予・讃岐の四国を巡る四国遍路は、全長1400\*にも及ぶ回遊型巡礼路として広く知られており、札所への巡礼は1200年を超えて継承され、現在も継続的に行われている。

### 一番札所の霊山寺

20（令和2）年は、真言宗の開祖である僧の空海が、醍醐天皇から弘法大師諡号（じこう）諡は「おくりな」と読み「贈り名」を意味する）を贈られて1100年を迎える年にあたる。なお、四国八十八ヶ所霊場会事務所の配布資料によると、弘法とは「弘法利生（弘法を弘（ひろ）め、衆生を利する）」に由来すると言われ、歴史上、天皇から大師号を下賜（かし）された高僧は25名に上る。



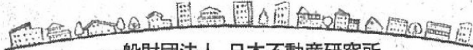
発心門（右）を抜けると風格のある仁王門（左）が現れる

徳島県には、四国八十八ヶ所のうち、第一番札所霊山寺

～文化的歴史的所産を巡る～

## 残したい情景

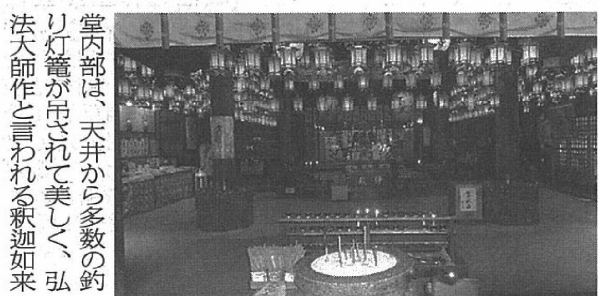
第43回 徳島県



一般財団法人 日本不動産研究所

（じょうぜんじ）から第23番札所薬王寺（やくおつじ）徳島県海部郡美波町）までの寺院があり、今回紹介する第一番札所にあたる霊山寺は、JR高徳線「板東」駅から北東方へ徒歩で約10分の徳島県鳴門市大麻町板東に建立されている。

霊山寺は、寺伝によると、天平年間（729～749年）に聖武天皇の勅願により行基が開祖したと言われている。正式名称である竺和山一乗院（じくわさんいちじょういん）を号した真言



本堂には弘法大師作の釈迦如来が安置されている（左）焼失により再建された多宝塔（右）

### 閏年は逆回り

もつ建物で、建物内には五智如来像が祀られている。



## 外国人にも人気の四国遍路

## 悠久の回遊型巡礼路

宗の寺院で、弘法大師が訪れた際、靈感を得て釈迦如来を刻んだと伝えられ、天空の霊山を和国（日本）に移すという意味で、竺和山霊山寺と名付けたと言われている。

霊山寺の配置は、本坊近くの発心の門をくぐると、入母屋造の楼門である風格のある仁王門が見えてくる。仁王門をくぐると、境内の配置は右手に鯉が泳いでいる泉水池、その奥に大師堂（だいしどう）、正面の参道を経て本堂が建立されている。現在の本

今回は1番札所を紹介したが、遍路ではこの札所からまわってもよいようで、徒歩のほか、車、自転車、観光バス等での巡礼も可能だ。今年は閏年にあたるので逆回り（左回り）で巡礼すると御利益が3倍になると言われている。

私が徳島に赴任した約2年前、着任後の数日間ホテルに滞在したが、朝食会場で巡礼目的と思われる欧米系の旅行者が、白衣を着て、金剛杖を持った姿を見て、軽いカルチャーショックを受けたが、近年では外国人巡礼者も増えている。

（徳島支所／不動産鑑定士・石森慎吾）